落語は無駄をなくした究極の芸

立川志の太郎

ふじみ野市出身の落語家、立川志の太郎さん。鼻筋が通った男前な容姿、聞きやすく心地いい声色、テンポ良い話のリズムに引き込まれてしまいました。

師匠は、現在「ガッテン」(NHK)の司会でおなじみの立川志の輔さん。2015年4月、真打の1つ前の「二ツ目」に昇進。徒弟制度のなかで、芸に対してだけでなく、生き方に対しても厳しく修行を重ね、「修行には終わりがない」と感じているそうです。心の中に、もうひとりの師匠をつくり、落語を極める努力をし、それが無我となり、人が持つ卑しい「業」を「修める」ことができた瞬間にはじめて「修業」となるのではないかという言葉は、大変印象的でした。

意外にも、子どもの時から落語好きだったわけではなく、市内の少年野球チームに所属した後、空手をする等、スポーツ少年でした。落語界に入るきっかけは大学生の時に聴いた、入門した師匠立川志の輔さんの落語のCDだったそうです。

様々な芸から無駄なものを全て取っていったものが落語という究極のシンプルな芸であり、初めて聞く人でも楽しめる芸に高めていきたいとのこと。そして落語は是非会場に行き、生で観て空気を一緒に感じてほしいとのことでした。落語以外の分野でも、「はじめてのおつかい」(日本テレビ)などのナレーションをされたり、活躍の場を広げられています。これからも応援していきたいと思います。

Data

HP：shinotaro.jp

文：篠島 幹昌
イラスト：望月 来南(小6)